

【第 1 回会議の主な意見】

	意見	検討テーマ
議論の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・検討テーマは色々絡みあっており、1つ1つ答えを出していくのは容易でない。山梨県の建設産業を考えるのであれば、公共工事への依存度が高いことや治山・治水のストック率が高いことなど特徴を踏まえる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内建設産業の現状と特徴を踏まえ、検討テーマを整理。「①担い手の確保」、生産性向上の議論を含む「②建設現場の生産性向上」「③就労環境の改善」「④経営力・営業力の強化」とした。
	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラメンテナンスに注目すると建設業の力が必要であり、そのためには担い手の確保が必要だがそれもすぐ対応できるわけではない。並行して生産性向上も進めていく。色々包含できるので、この2つに的を絞ってもいいのではないか。 	
人材の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいころから少しずつ建設業のことに触れてもらって、目を向けてもらえるような取組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「①担い手の確保」の若年者・女性等の入職促進の論点として整理。
	<ul style="list-style-type: none"> ・建設現場を実際に見学してもらったり、高校生（建設課程）にはクレーン玉掛けの講習を実施したり、小中学生向けには現場の実務を体験できる学習会を開催する方法がある。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地場の建設産業は地域をよく知っている人材が必要。災害時には、地域を熟知していてすぐに対応できる人材が求められる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・建設課程がある高校生の就職に関しては、県内の小規模事業者に就職することが多く、女子生徒は働ける場所がなかなかない。大学生は、県外の大手ゼネコンや建設コンサルタント、公務員になることが多い。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の女性技術者はまだ本当に少ない。労働局のくるみんマーク認定のように、女性が活躍している現場であることを表示したり名刺に印刷してPRできるような仕組みがあるとよい。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・県政モニターになる人は意識が高く、建設業の地域貢献やあり方についても理解いただいている印象。一方で、建設業への就職について、回答者自身が就きたいとか家族や親せきに就かせたいと思ったことがあるかという問いに対して、「ある」という答えが少ない。このギャップについて議論し、摺り合わせていくことが大切。 ・なぜ建設業に入れないのかという問いの答えとして、危ないから、という理由が考えられる。安全という観点が、担い手の確保や技術力向上の面でも重要な要素。 ・賃金で見ると、製造業など他の産業とあまり変わらないので、3K など負のイメージの払拭には対策が必要。 ・生産年齢人口の減少とともに、他産業との若年層の人材確保競争がさらに激しくなっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「①担い手の確保」の若年者・女性等の入職促進の論点として整理。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今建設業に携わっている方々がどう思って仕事をしているかやそれを支える家族やお子さんがどう見ているかということが大切。現場の環境を良くしたり、笑顔で楽しく仕事をしているところを一般の人に見てもらえるようにすることが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「①担い手の確保」の技術者等の定着促進の論点として整理。
	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県は治山・治水のストック率が全国でトップクラスであり、将来的には新設工事よりも維持補修工事が大事になってくる。維持補修については土木や塗装、型枠など専門的な技術が必要である。多能工化をはかり、フィールドを広げられるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「④経営力・営業力の強化」の論点として整理。
技術力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化施工や ICT 土工について、山梨のような小さな現場が多い地域でも活用できるのか効果が出るのかや、ICT 技術を導入していくことへの支援といった点は議論のポイント。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「②建設現場の生産性向上」の論点として整理。
	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模土工について、民間工事だと現場合わせ条件付き発注という形の契約が可能。県が改革を進めることができれば、重要な手段を1つ得られるかもしれない。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・国のほうでも i-Construction を推進している。力がなくても建設現場で働けるということを示しながら PR していけば、女性やシニアの採用も見えてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「①担い手の確保」の建設業の魅力発信及び「②建設現場の生産性向上」の建設現場の生産性向上の論点として整理。

	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピックに向けた建設需要は活発であり県内にはリニアの工事もある。技術力が高ければ仕事は取れるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「④経営力・営業力の強化」の論点として整理。
経営力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・経営力の強化という点では、事業者の経営規模が小さいままでこの先大丈夫なのか、AI などの新しい技術の導入や女性や新しい人材を呼び込めるような魅力づくりを小さい単位でやれるのか懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「④経営力・営業力の強化」の論点として整理。
	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少の中で公的な予算もこの先縮小されていくことが見込まれる中で、建設業として多様な道を考えていく必要がある。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・県外では、比較的規模が小さい建設業者が海外に進出して30年来ODA（政府開発援助）事業に参加しているといった事例もあり、こういった好事例から学ぶ必要がある。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・中小建設業者に特徴的な問題点について議論して、それに対する解決策や県による支援策を提案してはどうか。 	
事業者向けアンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・問9 今後の経営状況について、「③存続が心配」を選択した場合はその理由まできいてほしい。 ・現場環境の改善など事業者自身がどのように取り組んでいるか。 ・行政（国や県など）の支援策についてどのようなものを活用しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート(案)の問9を修正、問18及び問19を追加したうえで、実施した。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に加えて企業の流出などが重なれば、さらに深刻な状況になることが予想される。建設業を含む県内の他の産業を含めた大きな視点での議論や対策が必要ではないか。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> ・中央道ができたときも交通量が2.5倍に伸びて製造業の出荷量も大幅に伸びた。地域の強み弱みを分析して、このような好循環を生み出すにはどうしていけばいいのか、といった視点が必要。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保は大きなテーマ。労政雇用課など他課との連携や事務局の体制を考えるとよい。 	